

No	感染症(PT)	出典	概要
198	サルモネラ	CDC/MMWR 2007; 56(12): 273-276	2006年に米国の州保健局は農業飼料店で購入したヒヨコおよびその他の若い家禽と接触したヒトにおけるサルモネラ感染の3件のアウトブレイクについてCDCに報告した。このアウトブレイクに関連したトリの源を孵化場まで追跡し、トリからヒトへのサルモネラ感染伝播を防止するための勧告を提供している。
199	チクングニヤウイルス感染	CDC/Traveler's Health 2007年9月11日	イタリア保健当局は最近、イタリア北東部のRavenna地方における166例のチクングニヤ熱症例(内27例は確定例)を報告した。検査の結果、同地方の蚊が感染を媒介していることが明らかとなった。ヨーロッパにおいて蚊によるチクングニヤウイルス伝播は今回が初めてである。同地方への旅行者は蚊に刺されないように準備し、また、チクングニヤ熱の症状に注意を払うべきである。
200	チクングニヤウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 147-149	最近マレーシアでは、7年間検出されていなかったチクングニヤウイルス感染が再興した。分離ウイルスのゲノム配列は、1998年のアウトブレイク時のMalaysian 分離ウイルスの配列との相同性が高かった。この感染の再興は、他のインド洋諸国における流行とは関係ないが、マレーシア特有のチクングニヤが流行する可能性が浮上している。
201	チクングニヤウイルス感染	Emerg Infect Dis. 2007; Jan; 13(1):147-9	最近マレーシアでは、7年間検出されていなかったチクングニヤウイルス感染が再興した。分離ウイルスのゲノム配列は、1998年のアウトブレイク時のMalaysian 分離ウイルスの配列との相同性が高かった。この感染の再興は、他のインド洋諸国における流行とは関係ないが、マレーシア特有のチクングニヤが流行する可能性が浮上している。
202	チクングニヤウイルス感染	Eurosurveillance 2007; 12(9): E070906.1	チクングニヤ熱は2005年以来、大規模な流行がインド洋諸島とインドから報告されているが、これまでヨーロッパ地域内での蚊による感染伝播は発生していなかった。2007年8月にイタリアのエミリア・ロマーニャ州ラヴェンナ県衛生当局は異常に多数の発熱患者発生を検知し、臨床・疫学調査を行った。血清学的検査およびPCR法でチクングニヤ熱と確定された。更にヒトスジシマカからもPCR法によりチクングニヤウイルスが確認された。2007年9月4日までに合計197名の患者が報告されている。
203	チクングニヤウイルス感染	Lancet 2007; 370: 1840-1846	イタリア北東部の隣接する2つの村で原因不明の発熱性疾患患者が多数報告され、ヒトおよび蚊由来の検体を分析した結果、チクングニヤウイルス(CHIKV)が原因であることが明らかとなった。2007年7月4日から9月27日の間に205例のCHIKV感染症例を同定した。村の親戚を訪問した時に発症したインド出身男性が初発症例と推定された。系統遺伝学的分析により、イタリアのCHIKV株はインド洋諸島での初期のアウトブレイクで分離された株と高い相同性を示した。
204	チクングニヤウイルス感染	Pediatr Infect Dis J 2007; 26: 811-815	チクングニヤウイルス感染が大流行したレユニオン島の5つの新生児医療部門で同ウイルスの母子感染を調べるため、後ろ向き記述的研究を実施した。母親は出産時に徴候があったか又は新生児が出生初日に発病したかをスクリーニングし、新生児38名を登録した。無症候の2名を除き、全母親が周産期(分娩4日前〜1日後)に症状があった。全新生児が発熱(79%)、疼痛(100%)などの症状を示し、脳脊髄液のPCR法は24名中22名で陽性であった。高い罹患率の周産期母子伝播の可能性が初めて示された。
205	チクングニヤウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: 1895-1906	2005〜2006年にレユニオン諸島でアウトブレイクしたチクングニヤウイルス(CHIKV)感染は、エンベロープ蛋白遺伝子の変異株(E1-A226V)が関係していた。この変異の、ネッタインマカおよびヒトスジシマカにおけるCHIKV適合性に対する影響を調べた。その結果、CHIKVのヒトスジシマカに対する感染性が有意に増加し、哺乳マウスへの伝播がより効率的になることが明らかとなった。通常のベクターであるネッタインマカがいない同地域でCHIKVが大流行したのはこの変異が原因と考えられる。
206	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20061126.3359	昨年、シンガポールに留学し、最近帰国したTaipeiに到着した13才の台湾人学生がチクングニヤであることが確認された。台湾において初めての症例である。
207	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20061129.3380	スリランカ政府は、Jaffnaにおいて急速に伝播しているウイルス性発熱はチクングニヤ熱であることを確認した。5,000例以上が感染していると疑われている。
208	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20070124.0320	2007年1月24日、保健当局は、スリランカから日本へ帰国した30代女性がチクングニヤに感染していることが確認されたと発表した。日本人がチクングニヤに感染したと確認されたのは日本において初めてである。